

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の職員の目につく場所に理念の文書を掲げ、利用者様が理念に基づいて生活ができるよう努力している。	「共に笑い、共に楽しみ、共に悲しみ、共に生きる」の理念は玄関内に掲示し、共有と実践に繋がっている。ベテラン職員が多く在籍しており、理念の持つ意味を良く理解して日々の支援に取り組んでいる。家族には利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の図書館から本の読み聞かせやボランティアでコカリナなどの演奏に来ていただいている。	開設以来区費を納め、地域の一員として活動している。地域の皆さんが気軽に顔を出してくれたり、野菜等の差し入れをして頂いている。地域の秋祭りが再開され、お神輿が来訪して、利用者も楽しんだ。また、行事に合わせ楽器演奏等の地域ボランティアの来訪が再開した。更に、地元の図書館職員2名が毎月来訪し、本の読み聞かせ等を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所からの入所の方や、退職した元職員もいます。困りごとの相談に関われる施設でありたいと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告をし、意見を伺う。職員と共有。安全安心な生活を目指す。	運営推進会議は偶数月に地域包括支援センター職員、民生委員、法人の他施設の管理者、ホーム関係者が出席し、開催している。利用者状況、事故・ヒヤリハット報告、行事報告、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。	ホームとして積極的な支援活動を展開しているので、運営推進会議の構成メンバーを多方面に広げて。なお、一層地域に開かれ親しまれる施設となる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故などがあった場合には飯田市と情報共有ができるようにしている。	市の長寿支援課には事故・ヒヤリハット等の報告を速やかに行うと共に様々な事柄について連携を取っている。地域包括支援センター職員とは運営推進会議の構成メンバーとして参加して頂くと共に様々な事柄について連携を取っている。介護認定更新調査で市の調査員が来訪した際にはケアマネージャーが対応して行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない介護に努めている。現在、帰宅願望のある方がおり、数回にわたり玄関から出てしまう事案が発生している為、玄関などの施錠をしている。	身体拘束の無い支援に取り組んでいる。ホームの前には幹線道路が走っており安全確保の為玄関は午前中を中心に施錠している。外出傾向の強い利用者が若干名いるが、職員が付き添って話をして対応している。また、2時間に1回利用者個々の所在確認を行い、安全確保に繋げている。転倒落下危険のある方が数名おり、家族と相談の上で、センサーを使用しているが、毎月廃止に向けての話し合いを行っている。身体拘束、虐待防止の研修会を年に1回、身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開いて身体拘束関連の知識を深めて、日々の支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会を開催し、委員会を立ち上げているので虐待などがあれば報告してもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて学ぶ機会を取り入れ、必要性や活用法を模索していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される前から施設での生活やターミナルケア、退所時のことについて説明をして、ご家族が納得してから入所していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族からの意見や要望にできる限り応えられるようにしている。こころ通信に写真を入れ、ご家族が施設での様子を分かるようにしている。	家族の面会は、事前に連絡を頂いて、マスク着用で人数制限なしに20分位を目安に居室で行っている。遠方の家族は正月やお盆に面会に見えている。ホームでの生活の様子を2ヶ月に1回発行の写真入りの「こころ通信」で家族にお知らせしている。また、管理者中心に電話や面会時にきめ細かく日頃の様子をお知らせしている。コロナ禍で中断しているが、感染状況を見ながら、年1回位は家族会等の集まりを計画したい意向を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議で職員の意見や提案などを聞くようにしている。理事長も同席する為、直接意見や提案をすることができ、その場で今後どうしていくかを決め運営に反映させることができている。	毎月上旬に職員会議を開催している。職員の意見を事前に募集し、その意見を会議で話し合って意思統一を図っている。また、会議では利用者状況確認、行事計画、各種勉強会等を行っている。法人として人事考課制度があり、職員は年1回、評価シートに基づき、自己評価を行った後、管理者との個人面談が行われており、職員が意見を述べる機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回の職員会議で職員の意見や提案を直接代表者にする機会を設けている。給与水準は他業種に比べるとまだまだ低いが、加算などで分配できる様になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議や日々の介護の中で介護力の向上に尽力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は考えていない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との関係を重視し、声や表情からの訴えを捉えたいと思う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との距離を縮め、寄り添える施設でありたいと思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対話を常とし、今必要な支援を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の通り、「共に」を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を常に取り、情報の共有を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お身内や友人、宗教の集まりに関しても、家族の了解を得て、外出や面会を行っている。	近所から入居された方も多く、近隣住民の方の面会がある。また、年末年始やお盆の時等には自宅に戻られ食事を楽しまれている方も数名いる。美容師の資格を持っている職員が在籍しており、カットとカラーを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間での情報の共有を重きとし、施設内全域に目と耳を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも門戸を開けて、職員全員で対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向を聞き、ご家族様に報告。ご本人様とご家族様、施設で話し合いを行い、ご本人様の意向を大切に支援をしている。	半数位の利用者が意思疎通が難しい状況であるが、家族からの情報も参考にして、表情や行動より想いを受け止めている。他の利用者には飲み物、洋服選び等の二者択一の提案も含めて希望に沿える様に支援している。日々の生活の中で気付いた事柄は、介護記録に纏めると共に、職員で情報を共有している。また、ご家族からの依頼事項も連絡ノートに纏めて、情報を共有する様に心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、ご本人様の生活歴や既往歴、介護計画書を把握。ご家族様や担当ケアマネより状況を聞き、介護計画書を作成。介護計画書に沿って支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態、有する能力等現状を把握して、その人らしい生活ができる様支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は、職員や必要な関係者との話し合いで作成。モニタリングに関しては、職員が集まる機会が持たず、ケアマネジャーが行っている。	職員全員で利用者個々の状況把握に努めている。家族の希望は面会時や電話で伺い、更新時前のカンファレンスで職員が意見を出し合ってモニタリングを行い、ケアマネジャーがケアプランを作成している。入所時は家族からの情報も参考にして暫定プランを作成し、様子を見て短期目標6ヶ月のプラン作成に繋げている。状態が安定している場合は長期目標1年で見直しとなり、状態に変化が見られる場合には適宜見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録は、その日に関わった職員が記録。気づきは、共有ノートがあり記録し、皆が情報共有をし、毎月の職員会議にて検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生れるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の身体的精神的なニーズに対応して、支援を行う様努めています。その人が、その人らしく生活できる様、柔軟な支援やサービスの多機能化に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、地元図書館より、毎月1回本の読み聞かせに来てもらい交流している。また、地域ボランティア来訪にて、毎月1回は歌や手品、楽器演奏会の交流を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご本人ご家族等の希望を大切に、事業所は連携をこまめに取りながら、適切な医療が受けられる様支援をしてる。	入所時に医療機関についての状況をお聞きし、ホームとしての取り組みを説明している。現在は入所前からのかかりつけ医利用の方が数名おり、ご家族の付き添いによる受審と往診で対応している。他の三分の二の利用者はホーム協力医の月1回の往診で対応している。また、パート看護師が週に5日勤務勤務しており、ケアマネジャーと連携を取りながら利用者の健康管理と医師との連携を図っている。歯科は必要に応じて、訪問歯科医で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の気づきを共有ノートに記載。ケアマネジャーが看護師に状況を報告、主治医との連携を取り、適切な往診や看護が受けられる様心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネジャーが窓口になり、入退院時の医療連携を取っています。退院時前にケアマネジャーと現場主任とで、利用者さんの様子を見に行き、病院関係者、ご家族を交えて退院後に付いての話し合いを積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に、終末期のあり方については、ご本人様やご家族様に確認。その都度、ご家族様との連携をこまめにとり、状況報告や話し合いを持ち、主治医や地域関係者との関わりを密に取る様心がけている。	重度化、終末期を迎えた際の指針があり、利用契約時に説明して同意を頂いている。重度化を迎えた時には家族、医師、ホームで話し合い場を設けて、家族の意向を確認の上で、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂いて、医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。1年以内に数名の看取りを行った。家族には自由に居室で最期の時を共に過ごして頂いた。また、亡くなられた時には、他の利用者と共に見送りをするなど、心のこもった支援に取り組んでいる。なお、看取り後は振り返りの時を設けて、家族の言葉や職員の経験等を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡簿を作成し、ケアマネジャーや管理者に指示を仰ぎ対応。全ての職員は、対応手当や初期対応の訓練を定期的におこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	令和6年12月に消防署の方に来所してもらい、災害訓練を行った。ここで何かあった時には同法人のサ高住えんへ避難。地震などで停電などあっても冬は薪ストーブなどで暖を取る、調理も可能であることを確認。レトルト食品、水など備蓄もしている。	消防署への届け出た上で、年2回防災訓練を実施している。12月には消防署職員参加の下、地震災害に向けての対応について話し合いを行った。3月には火災を想定しての避難訓練、通報訓練を行う予定を立てている。また、年1回緊急連絡網の確認訓練を行い防災意識の向上に繋げている。「レトルト食品」「水」「お米」「介護用品」等を備蓄すると共に、「発電機」「カセットコンロ」等を準備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意をもって接するよう心掛けています。	プライバシーに配慮して、居室での生活も大切にする様に心掛けている。希望があれば居室で食事を取ったり、起床時間も希望に合わせる様に努めている。言葉使いにも気を配っており、方言も交えながら優しくゆっくり話しかけている。また、利用者の前では他の利用者の話はしない様に徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どちらにしますか？」など選択肢を作り、本人に選んでいただけるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りその方のペースで過ごしていただけるよう、無理のない生活環境を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身が持参した服をおしゃれに着こなしている方もおり、季節に応じた配慮をしつつご本人がおしゃれを楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を畑から採ってきて使ったり、季節の食の手仕事を一緒に行うことで作る過程も楽しんでもらえるよう努めている。できる方には食器の片づけを一緒に行ってもらっている。	利用者の三分の一の方は、一部介助が必要であるが、三分の二の方は自力で食事が出来る状況である。ホームの畑で栽培した野菜を豊富に使うと共に、冷蔵庫の中の食材を使って作り立ての物を温かいうちに提供している。職員も利用者と同じテーブルで食事を取っている。誕生日には「赤飯」や「五平餅」を提供すると共に、行事に合わせて飯田名物の「焼き肉」や「ちらし寿司」、「おせち料理」を手作りして提供している。また、在籍しているタイ人職員が作る「タイ料理」等も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者各々に応じた食事形態にし、メニューについても記録を残し栄養バランスを考えておいしく食べてもらえるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施。必要に応じて歯科往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄力を把握し、一人一人に合った排泄介助ができるよう支援している。	排泄は自力の方が半数強、一部介助の方が数名、全介助の方が若干名の状況であり、全利用者がトイレでの排泄を心掛けている。職員は利用者個々のパターンを把握しており、起床時、食事前、就寝前等の定時の声掛けの他、排泄表も参考して、様子を見ながら早めにお誘いしている。排便が4日間無い場合はコントロールを行い、お茶を中心にジュース等で1日1000cc以上の水分摂取により排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ食事や水分補給、体操などで便秘解消してもらえるよう努めている。薬の影響などで便秘がちな方もいるため、排便管理をし、医療と連携して便秘が少しでも減るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しみのひとつになるよう、無理強いをせずご本人が入りたいペースで入浴してもらっている。	入浴は見守り自立の方が半数弱、一部介助の方が半数強の状況であり、基本的には週2回の入浴を行っている。入浴拒否をされる方が三分の一いるが、誘い方に工夫をして入浴して頂く様に進めている。また、「ゆず湯」「菖蒲湯」「かりん湯」等季節に合わせたお風呂も楽しんでいる。入浴後には冷たいジュースや温かいコーヒー等で水分を摂取している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合った場所や時間を考慮し、休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	准看護師がいるので、薬の管理や副作用について他の職員と共有するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や塗り絵、折り紙などご本人が好きなことを自由にできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望のある方については職員が付き添い、散歩や同法人内の隣の施設へ行けるよう支援している。	外出時は自力歩行の方が半数弱、手引きの方が若干名、車椅子使用の方が半数強の状況である。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、ベランダに出てお茶を飲みながら外気浴を楽しんでいる。また、昨年より外出レクリエーションを再開しており、今年は感染状況を見ながら外出する機会を増やす計画を立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今までお金を所持していた方はいたが、現在は管理できる方がいないためそういったことはしていない。この先、自己管理できる方がいて、ご本人の希望があれば支援していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけてくるご家族には入居者様に電話を替わり、話せるようにしたり、手紙が来たら代読やご本人の希望があれば代筆などで手紙を書くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ季節を感じられる装飾品や花を飾っている。適温を保つように居室の窓を二重サッシにするなど今まで以上に快適に過ごせるようにした。	掃除が行き届き清潔感漂う共用部分はキッチンから全体が見渡せる造りとなっている。壁には利用者が作成した見事な折り紙作品やぬりえ等が飾られている。南側の窓の外には木製の広いベランダが設けられ、寛ぎの場となっている。また、広い家庭菜園では年間を通して季節の野菜が栽培され、ホームの食卓に上っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者さん同士が話しやすいような席の配置にするなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた、筆筒などの見慣れたものを居室へ持ち込んでいただき、できるだけ気持ちよく普段通りに過ごしていただけるような空間づくりをしている。	居室は十分な広さが確保されている。家族と相談の上で、出来るだけ家で使い慣れた筆筒、椅子、ハンガーラック、テレビ等を自由に持ち込んでいる。家族の写真、仏壇、お位牌等に囲まれて、第2の我が家として思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんができることの現状を職員が理解し、サポートしながら安全で自立した生活を送っていただけるよう支援している。		